



# 第17回自治体国際交流表彰（総務大臣賞） ～受賞団体から学ぶ交流の取り組み～

（一財）自治体国際化協会交流支援部交流親善課

クレアでは、自治体の国際交流活動のさらなる活性化を図り、地域の国際化に資することを目的として、総務省と共催で、創意と工夫に富んだ国際交流の取り組みを「総務大臣賞」として表彰し、全国に広く紹介しています。

第17回目となる2022年度は、有識者からなる審査委員会の審査を経て、下記の3団体が受賞しました。

## 【評価のポイント】

### ◆旭川・ブルーミントン・ノーマル姉妹都市委員会

多くの市民・団体・企業などが受け皿として連携・協力し、交流の取り組みが市や市民に深く根付いたものである。10か月にわたる長い期間の“本格的”な高校生交換留学を半世紀以上、そして中学生派遣については40年近くにわたって積み上げてきた継続性ととも、委員のほとんどがボランティアという委員会による取り組みを高く評価できる。

### ◆川越市・川越市姉妹都市交流委員会

青少年に対するグローバル感覚の涵養とキャリア形成の支援に重きをおいた事業を30年以上にわたって継続的に展開し、成果を挙げている。過去に姉妹都市派遣事業に参加した市民の経験を次の世代の国際的感覚の醸成やキャリアアップに生かすためのさまざまな仕組み作りがなされている点も評価できる。

### ◆大阪市

「メインストリート」を軸に、人が交流する場所、空間としてのストリートへ着眼したテーマ性のある交流事業を進め、都市計画の上で有意義な協力が図られている点が个性的で先進的であり、他のモデルになり得る点が高く評価できる。

ここからは受賞団体の皆様から国際交流の具体的な取り組みについて、ご紹介いただきます。

## 青少年に「世界に羽ばたく一歩」を！

旭川・ブルーミントン・ノーマル姉妹都市委員会【交流相手先：ブルーミントン、ノーマル、旭川姉妹都市委員会（アメリカ合衆国）】

旭川市は1962年にブルーミントン市と姉妹都市を提携しました。旭川・ブルーミントン・ノーマル姉妹都市委員会は同年に設立した旭川市姉妹都市委員会を前身とし、同市に隣接するノーマル市（1987年に姉妹都市提携）を含め60年にわたり友好親善交流を続けてきました。

その交流の柱となっているのが、1967年に開始した高校生交換留学と1985年からの中学生相互交流の2つの青少年交流であり、これまでに両市合わせて延べ1,256名が友好を深めてきました。

中学生相互交流では、両市の中学生が2週間ほど相手市を訪問し、ホームステイや学校訪問などを通じて、語学の習得を促すとともに、訪



旭山動物園を楽しんだブルーミントン・ノーマル両市の中学生

問先の市民や中学生と親睦を深められるよう努めています。具体的には、旭川側では日本語の学習や書道・料理といった文化体験のほか、雄大な自然を生かした登山体験など、ブルーミントン・ノーマル側ではリンカーンセンターの見学やフードバンクでの奉仕活動体験など、両市・両国の特色を生かしたプログラムとしています。

高校生交換留学では、両市の高校生が約10か月間を相手市で過ごします。交換学生はホームステイをしながら、地域の高等学校に通い、部活動やボランティア、学校行事などに参加し、言語・習慣・文化・価値観などを学んでいきます。

旭川から送り出した交換学生には定期的にレポートを提出してもらっており、現地での日常生活やホストファミリー・友人たちと楽しく過ごす



現地高校の卒業式に出席 特別な経験のひとつ

の様子を知ることができるとともに、文化の違いによる葛藤や苦悩など、交換学生の努力や成長も感じることができます。

2023年はコロナ禍を乗り越え4年振りに交流を再開します。秋頃に届く交換学生からのレポートが楽しみです。レポートは、旭川市国際交流センターのホームページにも掲載しますのでご覧ください。

若く多感な時期に異国の生活や文化を体験し、その風土に触れることは、青少年の視野を広げ、世界に羽ばたく一歩を踏み出すためにとても重要であると考えます。

これまでの参加者には、各界で活躍されている方が多く、交換学生や中学生のホストファミリーや交流の担い手として携わるなど、今もブルーミントン・ノーマル両市との関わりを大切にしてくれています。

これまで長きにわたり交流を続けることができたのは、こうした人と人とのつながりを大切にしてきた賜物であり、これからも2つの青少年交流を軸として、より多くの市民を巻き込みながら、両市民の相互理解の促進と未来を担う青少年の夢を後押しする活動を展開していきたいと思えます。

## 過去派遣生とのコラボレーションを通じて再認識した「国際交流の意義」

川越市・川越市姉妹都市交流委員会【交流相手先：オッフエンバッハ市（ドイツ）、セーレム市（アメリカ合衆国）、オータン市（フランス）】

川越市では、国内外6都市と姉妹友好都市提携を結び、青少年、経済、文化、スポーツなど、さまざまな分野での市民間交流を行っています。

海外都市については、オッフエンバッハ市（ドイツ）、セーレム市（アメリカ合衆国）およびオータン市（フランス）の3都市と多様な交流を行っており、特に青少年間の交流事業に大きく力を注いできました。

これまで海外3都市に対して計30回にわたり、500名以上の本市中学生を派遣し、言語や



文化などが異なる オッフエンバッハ青少年団との交流風景  
環境下での全泊ホームステイ体験を通じた交流と学びの機会を提供してきました。

このように長年積み重ねてきた海外姉妹都市への中学生派遣事業は、2021年、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行により中断を余儀なくされましたが、本事業が過去派遣生に及ぼした影響を調べる「海外姉妹都市訪問川越市中学生交流団派遣生アンケート調査」を同年初めて実施しました。

このアンケート調査では海外派遣事業に対する派遣生の高い満足度が明らかになっており、かつ、80%以上の派遣生が本事業への参加がその後の生活や進路選択に影響を与えたと回答しています。

また、本事業への参加を契機に外交官や国連機関職員などとして活躍する派遣生も生まれていることが判明しました。

その成果を生かして、2021年度には過去派遣生2名をパネリストに招き、中高生シンポジウム2021「Globalな未来へ はばたく君へ」をオンライン開催しました。また、2022年度には「市制施行100周年川越市姉妹友好都市記念式典&シンポジウム」を開催し、国内3姉妹友好都市関係者（コロナ禍のため海外姉妹都市からはビデオメッセージのみ）が一堂に会する中で、過去派遣生3名をパネリストに迎え、事業に参加して得た体験や、異なる文化をもつ人々とつながる魅力と醍醐味などについて考える機会を提供しました。100周年シンポジウムの様子



海外姉妹都市との交流事業は、戦乱や災害などによって中断を余儀なくされることが往々にしてあります。しかし、そうした逆境にあっても過去派遣生と連携・協力

することで、国際交流の意義を次世代の子供たちに伝えることができるのだという確信を得ることができました。

今後、事業を再開していくこととなりますが、これからも過去派遣生とのコラボレーションを生かして本市の海外姉妹都市交流事業をより実りあるものにしていきたいと考えています。

## 世界最新モデルとなる、 人中心のストリートへ

大阪市【交流相手先：シカゴ市（アメリカ合衆国）、メルボルン市（オーストラリア）】

大阪市とシカゴ市は、1973年11月の姉妹都市提携をきっかけとして、文化・スポーツ・経済などさまざまな交流を行っており、2023年に姉妹都市提携50周年を迎えます。また本市とメルボルン市は、1978年4月の姉妹都市提携のほか、ビジネスパートナー都市（BPC）、姉妹港と多面的な交流を行っています。

2017年に本市のメインストリートである御堂筋が完成80周年を迎えたことを契機として、御堂筋完成80周年記念事業を実施し、シンポジウムやワークショップ、御堂筋を華やかに演出する取り組みを進めました。こうした取り組みを一過性のイベントに終わらせるのではなく、80周年以降も将来の御堂筋のあり方を公民で検討し、新しい御堂筋づくりを進めていくために取り組んでいます。

そうした中で、道路を通じて魅力的なまちづくりを展開するために、御堂筋の魅力や取り組みを世界に向けて情報発信することや、御堂筋と同様のメインストリートを持つ海外の大都市と多様な知識と経験を共有することを目的として、姉妹ストリート協定の締結に向けた取り組みを進めました。

2018年3月に大阪市と姉妹都市提携40周年であったメルボルン市と、また、同年6月に姉妹都市提携45周年であったシカゴ市と姉妹ストリート協定を締結し交流連携を進めています。メルボルン市のメインストリートである「スワンストーンストリート」は、2013年に自動車の通行を制限し、歩行者と自転車の利便性と安全性の向上をめざした空間再編が行われました。また、シカゴ市のメインストリートであるザ・マグニフィセント・マイルは、美しい住宅、一流のブランドショップが軒を連ね、ライトフェスティバルなど、公民が連携してスト

リートを利用した賑わい創出を実現しています。

姉妹ストリート協定を締結しているこれら2都市とは、年に1～2回のWEB会議などを通じて、道路空間における賑わい創出をする上でのインフラ設備や、道路における緑化などの技術交流を行ってきています。

2022年度は、6月にシカゴ市において姉妹ストリートの記念碑を設置するセレモニーが行われ、大阪市と御堂筋沿道の民間事業者が参加しました。



シカゴ市記念碑前にて

12月には、シカゴ市からワールド・ビジネス・シカゴ、ザ・マグニフィセント・マイル協会を大阪に招へいし、両団体の講演会を実施するとともに、大阪市・メルボルン市・シカゴ市の姉妹ストリート連携3都市会議を開催し、それぞれの都市が培った技術、経験を共有することで、メインストリートを活かした賑わい創出、都市魅力の向上・活性化に貢献しています。

今後、パリ市のシャンゼリゼ大通り、ニューヨーク市のブロードウェイを加えた、5都市による世界ストリート国際会議の開催をめざしており、各都市が思い描く「みちの将来像」について議論し、得られた成果を2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）開催期間に「御堂筋」に具現化し、来場する方々に「みちの将来像」を体験してもらいたいと考えています。



姉妹ストリート連携3都市会議

受賞団体の取り組みを参考として、さらに多くの活発な国際交流が生まれることを期待しています。

クレアでは、毎年8月から当該表彰の募集を行っています。皆様からの積極的なご応募をお待ちしています！